

『年金は未来への架け橋』

宮代町立前原中学校 2年 深澤 瑞葵

私には、昨年 20 歳を迎えた兄がいます。

兄は大学に通いながらアルバイトをしています。そのアルバイト代で、大学への交通費を支払ったり、昼食代を支払ったり、自分の服を買ったりとやりくりをしています。そこに 20 歳の誕生日を迎えてからもう 1 つ支払うものが増えたそうです。それは国民年金です。

「年金」最近よく耳にする言葉ですが、「年金」とは何なのでしょう。気になって調べてみました。年金とは 65 歳以上の人が毎年もらえるお金のことで、歳をとったとき以外にも大きなケガや病気をしたときや、一家の大黒柱が亡くなった時にももらえるということがわかりました。また、年金を支払っているのは 20 歳から 60 歳までの全国民だということもわかりました。ここまで年金について調べてみて、私は 2 つの疑問が生まれました。

まず、1 つ目の疑問は、65 歳以上の人であれば誰でも年金をもらえるのかということです。調べてみると年金をもらうためには、年金保険料を支払わなくてはいけないということがわかりました。また、お金が無くて年金保険料を納めることが難しい場合は免除申請をすることができますが、受け取る金額は減ってしまうということがわかりました。つまり年金は、年金保険料を支払っている人や、免除申請をしている人は受け取る資格があるということがわかりました。

次に 2 つ目の疑問は、なぜ、年金を払っている人達が年金をもらえないのかということです。それは、いま働いている世代が支払った保険料を仕送りのように高齢者などの年金給付に充てるという、「世代と世代の支え合い」という考え方で年金が成り立っているからです。自分で稼いだお金を自分で使えなくて不満に思う人もいるかもしれませんが、高齢者を支えるのは自分達だという考え方を試してみたいなと思いました。

年金は 65 歳以上の人達が豊かな生活を送れるようにするためだったり、ケガや病気、亡くなったときのために 20 歳から 60 歳までの国民が納めているということがわかりました。現在の日本は少子化で高齢者を支えるべき年代の人口の方が少なく、たくさん抱えているという現実がありますが、6年後年金を納めるときには、高齢者の方々を支えていくという強い意志を持ってしっかり年金を納めていきたいなと思いました。